

『タイトル(仮)：変身ヒロイン寝取られビデオ』

■：シーン

【バイノーラル位置指示 カメラまでの距離と声の向き】

(＊状況説明)

(／演技備考)

■ 0

(＊変身ヒロローの主人公がスマホで敵怪人から送られてきた動画を再生しているシチュエーション)

【正面1.0mマイクに向く】

(＊ヒロインがどこかのマンションの一室で目覚めるところから動画が再生される。シーン0はカメラがヒロインの前の脚立に固定されているシチュエーションで)

(／最初は困惑している感じで怪人に対しては整然と物怖じしない対応の演技をお願いします)

「ん……んんう……？」

「あれ……？私、いったい……？」

「ん……確か、怪人さんのアジトに向かって……」

「ええと、それから……」

【正面1.0m右を向く】

(＊怪人の存在と首輪に気づく)

「……怪人さん……いつからそこに……？」

「え、この首輪は、んっ……魔法少女の力が封じられているのー？」

「どうしてこんなことを……解放してくださいー！」

「私には、帰りを待つってくれる人が……」

(＊怪人、条件を突きつける)

「……一週間、怪人さんと一緒に過す……？」

「それが解放条件ですか？」

「よくわかりませんが……そんなことで解放してもらえるなら、構いません」

「……はあ、良かった」

「もしあの人の元に戻れなかったらどうしようかと思いました」

(\*ここ)でようやくカメラに気づく)

【正面1.0mマイクに向く】

「……ところで怪人さん」

「どうしてカメラを回しているんですか？」

「……墜ちていく様子を、彼に見せるため……？」

「あの……」墜ちる「って、なんのことでしょっか？」

「よくわかりませんが……」この映像は、彼に届くんですよね？」

「だったら……」

(\*カメラ越しの主人公に向けてのセリフ)

(／最初は少し震えているけど、すぐに意志の強さを出す感じの演技をお願いします)

【正面0.5mマイクに向く】

「あの……見てくれますか？」

「……ごめんなさい」

「油断して、怪人さんに捕らわれてしまいました」

「ですが、心配はいりません」

「一週間後には必ず、キミの傍に戻りますから」

「それまで待っていてください」

1

（＊基本的に怪人がハンディカメラを片手に持ってハメ撮りをするようなシチュエーションで）

（／＼最初は警戒心のない感じの演技で）

【正面一歩右1.0mマイクに向く】

「あの……それで、怪人さん？」

「一週間一緒に過ごすって言っていました、何をすればいいんでしょうか？」

「……身の回りのお世話、でしょうか？」

「それくらいなら、私……きやあつ!？」

（\*怪人、ベッドにヒロインを押し倒しキス開始）

（／＼困惑と拒絶、絶望感は弱めの演技でお願いします）

【正面一歩右0mマイクに向く】

「ふ……んんんうっ！？」

「ちゅっ……♡はむっ……ちゅっ……うっ……うっ……」

「何を……するんですか……っ!？」

「やめて、ください……んっ——！」

「ちゆる……んっ」

「ん……んちゅっ……♡ちゅく。」

「じゃあ、するなんて……」

「私……聞いてないです!？」

「ちゅっ、んう……ちゅ……ちゅっ。」

「んむっ、はむっ……♡」

「最初の、キスは……」

「彼としようって、決めていたのに……」

「ちゅっ……ちゅる……ちゅく……んっっ!？」

「じいじと、一んなじと……」

「一週間過すって……まさか!？」

「毎日、こんなことを……？」

「んむっ、んちゅ……ちゅ……んんっつんづー!？」

「嫌です、無理です……」

「好きでもない人と……こんなこと。」



（／怪人の愛撫で羞恥の中にちよつとだけ感じてしまっけど、頑張って否定して強気に見せようとしている演技をお願いします）

【正面 一步右OMマイクに向く】

「見せたこと……ないのに……もう私を汚さないでー？ あ、あ、ああー？」  
「んちゅっ……♥ちゅくっ……♥れろっ……♥んじゅくっ、んじゅくっ♥」  
「じゅっっ、ぢゅぶるっ♥んじゅくっ♥れろっ……♥ぢゅぶるっっー」

（＊胸の愛撫開始により、軽い嬌声混じりのディープキスに）

「んんっっ、んあっっ♥んあっ、じゅるっ……♥ぢゅぢゅっ……♥」  
「じゅるっ……ちゅむっ……じゅっっ、んっ♥んじゅくっ♥」  
「嫌っ？ 触らないで……ください……ー？」  
「動画の向こうの力にに向かってっじ、実況ー？」  
「そんなこと……ー」

「んくっー……や、やあっー？」  
「うっ、怪人さんに胸を開けさせられて、んっ……♥」  
「好きでもない人に……く、唇を奪われて……」  
「……んんっー？」

「大きな手でショーツの、んっくっっ、上から、女の子の大事な所を……ー？」  
「そこを、触っていいのはっ……♥」  
「彼だけ……なんですから♥」

「ちゅっ……♥ちゅむっ……♥じゅく……♥んちゅっ……♥ちゅくっ♥」  
「はむっ……♥ん……♥れろっ……♥んっ♥」  
「変な声なんて……出ていませんっ……♥」  
「怪人さんの……♥勘違い、ですっ……♥」

「そんなこと……ありえ、ませんっ……っー？」  
「ありえ、ないのに……♥なんでえ……ーっ？」  
「はむっ……♥じゅっっ♥んあうっ♥ちゅくっ……♥ちゅむっ……♥」  
「んんっ……♥んあうっ……♥んっ♥んっ……♥ぢゅぢゅっ……♥」  
「じゅく……♥じゅく……♥じゅっっ♥ちゅくっ♥ぢゅぶるっ……♥」

（＊秘部の愛撫開始。背後から抱きしめられながら。振り向かされてキスされながら）  
（／まだ困惑と拒絶が強い感じで行きは荒くなっているけど気持ちよくなっていることを隠したい感じの演技をお願いします）

【正面一歩右0mマイクの反対方向に向く】

「んんんっ……ーっ」

「ん……♥はむっ……♥んんっ♥ぢゅぢゅっ……♥じゅむっ……♥」

「そんなところお……っ♥」

「自分でも……♥触ったこと、ないのに……っー？く、クリトリスなんて！？卑猥ですー！そんな、卑猥な、こと……嫌、嫌っー？」

「ぢゅぶっ……♥ぢゅぶっ……♥ぢゅぶるっ♥じゅむっ……♥んっ♥」

「ふっ……♥ふっ……♥れろっ……♥れろっ……♥れろっ……♥れろっ……♥」

「お豆を、怪人さんの指で……んっ……♥」

「れろっ♥れろっ♥れろっ♥」

「……キスしながらこんなエッチなことカレがするわけー？」

「んあっー？あ、っくっ……そんなに……♥奥まで……♥」

「指……挿れたら……っ♥」

「ちゅくっ……♥んんんっ……♥ちゅくっ……♥……♥んっ……♥んんっ♥」

「んちゅっ……♥んっ♥んあっ♥ちゅっ……♥」

「変な……感じがして……♥」

「なんですか、これ……っー？」

「んちゅっ……♥ぢゅぶるっ♥じゅく……♥ちゅく♥んんんっ♥」

(〃真っ赤になって否定しようとしている演技をお願いします)

「自分で……♥自分が、分からないです……♥乱暴にされて、喜んでるわけっー？」

「んんんっ♥はむっ……♥ぢゅるっ……んんん……♥」

「ん……♥んあっー……んんん……♥ちゅっ……♥」

「っく、そんな糸引いたところなんて……知りません、知りませんっー」

「はあっ♥ふっ……♥ふっ♥ふっ……♥ふっ……♥」

「はあ……♥はあ……♥」

(＊キスを止め、向き直らさせてペニスを出す)

(〃初めて見る男性期に混乱と羞恥でびっくりしている感じで)

【正面一歩右0.5mマイクに向く】

「きゃあっー？し、しまつてください、そんなもの……っ♥」

「男の人の、ア、アレなんてー？くっ……力さえ戻ればっ……ひゃあっー？」

「ん…………どうして脱いでるんですか…………」  
 「…………嫌ですからね、私…………っ♥」  
 「初めては…………彼に捧げるって決めて…………♥」  
 「く、首輪の機能でアナタの命令には逆らえないー?」  
 「ダメ、ダメですー?」  
 「ふあっこんな私…………私…………♥」

(\*怪人、ヒロインの目の前にペニス突きつける)

【正面一步右0.3mマイクに向く\*可能ならカメラの下方向に0.3m】

「はあ…………はあっ、はあっ♥ ふうっ、ふう…………♥」  
 「目の前に…………見せつけないでください…………♥」  
 「…………なぜとですよね?」  
 「私に…………♥ それ、見せるために…………♥」  
 「ひどいです…………」  
 「彼のだってまだ…………見たことないのに」  
 「そんなに、近いと…………♥」  
 「不潔ですっ! 不潔…………か、カレのはこんなグロテスクなものなわけっ…………み、みたことないですけど♥」  
 「はあ…………♥ ふう…………♥ ふう…………♥ ふう…………♥ ふう…………♥」  
 「変な臭いです…………♥」  
 「生臭くて…………汗臭くて…………♥」  
 「もう…………♥ しまってください…………♥」

(\*ペニスビンタ開始。思わず声を漏らすヒロインは、徐々に興奮を強める)

(//まだ拒絶の方が大きいけど、/性的興奮がほんのちょとづつ入っていく感じで)

「あうっ…………♥ あうっ…………♥ ああっ♥ あん…………♥ うあ…………♥」  
 「こんな…………ビンタ…………♥ 屈辱的です…………♥」  
 「あうっ♥ ふっ…………♥ あっ…………♥ はっ…………♥ ああっ…………♥」  
 「あはあ…………♥ ああっ…………♥」  
 「なのに…………どうして…………っ」  
 「体が…………♥ どんどん熱く…………っ」  
 「はうっ…………♥ はっ…………♥ あうっ♥ ああっ…………♥ うっ…………♥」  
 「違う…………ー? 違います…………♥」  
 「私…………こんなことされて…………♥」

「悦ぶ……♥ 変態さんなんかじゃ……っー?」

「ああっ♥ あうっ……♥ あうっ……♥ ……っ♥ あっ♥ ああっ♥ あうっ♥ んっ♥」

(\*挿入直前に)

【正面一步右Omマイクの方に向く】

「ふう……ふうっ♥ ふう……ふう……♥」

「待ってください……お願いします……っ♥」

「私の初めては……♥ 彼に……っー?」

「いやあっー? そんなおっきななのっ……っー?」

「た、例え……体の自由は奪えても、心までは……」

(\*挿入時の悶え)

「んっ、んんっー……あう……うううう……っー?」

(\*怪人、痛がるヒロインを気にせず抽送開始)

(\*ヒロイン、痛がりつつも嬌声を漏らす。拒絶と快感……っへっいで)

「あうっ……んあう……っー? あう、あう……んあう……」

「入っちゃったー? うそ、うそ……んあう……? みちみちって、あんなおっきなのがー?」

「ああっ、あうっ、んあう……っー? んあう、んあう……っ♥」

「待って……抜いて、ください……っー?」

「痛くて……苦しくて……」

「あはあ……♥ ふっ……っ♥ はあっ……♥ あっ……♥」

「あうっ♥ ああっ……♥」

「だけど……この痛みも……全部……」

「彼と……味わいたかったのに……っ」

「あうっ♥ あっ……♥ あうっ……♥ ああっ♥ ……っ♥」

「彼から……もらえるなら、痛みだって……」

「嬉しい……けど……」

「怪人さんとするのは……少しも嬉しくない……です……」

「痛くて、気持ち悪くて……っ」

「こんなの、屈辱です……っー」

「戦いで負けるよりも、悔しくて……不快で……っー」

「あん♥ はっっ♥ うっ……♥ ああっ♥ ああっ♥」

「ああっ♥ んあう♥ ああっ……♥ あうっ……♥」

「それに、気持ち良くも……っー?」

「あう……♥ あうっ……♥ あうっ……♥ あん……♥ ああっ……♥」

「この声は……♥ 違います……♥」  
 「勝手に……出ているだけで……っー」  
 「気持ち良くなんて……ないですからぁ……っー」  
 「んぁっ……ふっ……あぁっ……あぁっ……あぁっ……♥」  
 「ん……♥ あっ……あぁっー？」

(＊カメラで撮られていることを思い出っっ)  
 (／興奮が一瞬で冷めて真っ青になる感じで)

【正面一歩右0.5mマイクの方へ向く】

「もしかして、これも……」  
 「カメラで……撮られているんですか……っ？」  
 「あっあっ……♥ あぁっ♥ はうっ……♥」  
 「ということば、これ……」  
 「彼に、見られて……ー？」  
 「ん……♥ あっ……♥ あっ……♥ あう……♥」  
 「はっ……♥ はっ……♥ あぁっ、うっ……ー？」

(＊以降、彼に向けてのセリフ)

(／冷めた興奮がピストンでまた徐々に侵食して行く感じで)

「違います……これ、違うんです……っー？」  
 「怪人さんに……無理矢理されて……ー」  
 「あぁっ……♥ あうっ♥ んぁっ♥」  
 「ごめんなさい……ごめんなさい……」  
 「本当は……私の、初めて……」  
 「キミに……もうって欲しかったのに。」  
 「あっ♥ あぁっ♥ うぁ……♥ あぁっ……♥ んう♥」  
 「あっ……♥ あっ……♥ あうっ……♥」  
 「うう……見ないで。」  
 「キミ以外と……こんなことしてると……」  
 「見ないで……ください……っー」  
 「あうっ♥ あっ……♥ あうっ……♥ ダメなのになっ？」  
 「やめっー？ ううっ……♥ んぁう……♥ あん……♥ んぁっ♥」  
 「うぞっー？ あぁっ♥ んぁ♥ あぁっ、あうっ♥」

(／激くなるピストンに、手で口を覆い、声を抑えようとしている演技をお願いします)

【正面 一步右0.3mマイクの方角に向く】

「あう……♥ んうっ♥ あはあ♥ ああっ……♥♥」

「んあ、んあ……♥♥ あうっ……♥♥ あう♥」

「こんなの、絶対……♥ おかしいです……♥♥」

「好きでもない人にー?」

「無理矢理……♥♥ されてるのに……♥ー?」

「私、体が、勝手に……♥ー?」

「あっ……♥♥ ふっ……♥♥ あん……♥♥ んっ……♥♥ あう♥」

「んあう……♥♥ あうっ……♥♥ あっ♥♥ ううっ♥♥……♥♥」

「痛みも……♥♥ ちつきより……♥♥」

「引いてきて……♥ー?」

「ううっ♥♥ あっ♥♥ あっ……♥♥ うあ♥♥ はうっ……♥♥」

「こんなの……まるで……♥♥」

「怪人さんのこと……私が、受け入れてるみたいで……♥ー?」

「うあ♥♥ あっ……♥♥ ああっ……♥♥ んあ……♥♥ あうっ……♥♥」

「んんうー? ああっ♥♥ ふっ……♥♥ んあう……♥♥」

「そんなこと、ないのに……♥ー?」

「あっちゃ……いけないのに……♥ー」

「ふうっ……♥♥ く、ん、んんっ? ふー、ふー……♥♥ あっ♥♥」

「こんなのっ、ああっ?」

「はあ、はあっ……絶対、に、負けない、んっ、だからあ……♥うっ?」

「んっ……♥ふうっ?」

「私が……好きなのは……」

「私の中に……入って来ていいのは……」

「彼……だけなのにいっ?」

「あうっ♥♥ んあっ♥♥ あっ♥♥ ああっ♥♥ あはあ♥」

「んあう……♥♥ んあ……♥♥ ああっ……♥♥ あっ……♥♥ ああっ♥♥」

(／手を口から離し、意志を込めて怪人に対峙しようとするけど、やっぱりピストンに流されてしまう感じをお願いします)

【正面 一步右0.3mマイクの方角に向く】

「一度汚されたぐらい、でっ……♥ー、ふー、ふー、私は、スイート・ミエリィはっ……♥♥」

(\*怪人、腰の動きを速める)

「んんんんうっ……ああっ♥」

「んあう……♥♥ふっ……♥♥んあっ♥♥ああっ……♥♥ああっ……♥♥」

「あうっ♥♥うあ♥♥ふっ……♥♥ああっ♥♥はあっ♥」

「どうして……腰の動き……」

「また、速く……う、なるのおっーっ」

〃〃この辺から声のことを気にする「ともです、会館に流されそうになっている感じでお願います」

「あう……♥♥んんう♥♥あっ♥♥うっ♥♥ああっ♥」

「ふっ……♥♥ああっ♥♥んっーっ」

「それ……ダメです……っーっ」

「深くてえ……っーっ？ 強くてえ……っーっ」

「ダメ……私の体あ、壊れちゃいます……っーっ」

「あん……っ♥♥ああっ……♥♥うあ♥♥ああっ♥♥あはあ♥」

「あうっ♥♥あうっ♥♥んあ……♥♥」

「はあっ♥♥あうっ♥♥あうっ♥♥はっ……♥♥あうっ♥」

「え、えーっ？ 嘘ーっ？ 中にっーっ？ ダメ、ダメ、ダメですっーっ」

「ああっ……♥♥んあっ♥♥んう……♥♥ああっ♥♥はあっ♥」

「うっ♥♥あっ……♥♥あっ……♥♥ふっ……♥♥ああっ……♥♥」

「そういうのは……赤ちゃんを、作る時だけです……っーっ」

「あうっ……♥♥あう♥♥ああっ♥♥あっ……♥♥うあ♥」

「それに……♥♥私……っーっ」

「大好きな人の……♥♥赤ちゃんしか、ほしくないです……っーっ」

「……っ♥♥んんう♥♥うっっ♥♥あっ……♥♥はうっ……♥♥」

「ま、魔法でどうにかっ……でも、でも、魔法をそんなことに使うなんて……んあっーっ？

ど、どしたら……お願います、やめ、あ、ああっ♥♥やめてくだ、んくっうっーっ」

「もし……赤ちゃん、出来ちゃったら……っーっ」

「彼に……なんて言えればいいか……」

〃〃大声で喘いでしまっている感じでお願います

【正面 一步右 O.5M マイクの方向に向く】

「あっ♥♥ん……♥♥んんう♥♥止めてーっ？ 止め、ああっーっ」

「はうっ……♥ ああっ♥ んあっ♥ あうっ♥ ううっ♥」

「泣いてなんて、ああっ……♥ ああっ……♥」

「だから……ダメです……!？」

「お願いします……♥ダメっ?」

「んあう……あう、あん……っ♥ ああっ♥ あっ……!？」

「あん……っ、あうっ……!？ ふっ……ああっ♥」

「ダメ……♥ ダメダメ……♥ ダメええええええっ……♥」

(＊射精)

「ん……んんう~~~~♥♥♥」

「んうっ……♥ はあ……♥ はあ……♥ はあ……♥ はあ……♥ 中で出てるのが、わかつちやうっ……」

(／＼悲しそうに主人公に謝る感じをお願いします)

【正面 一步右 1.0Mマイクの方向に向く】

「ふう……♥ ふう……♥ きらい、きらいですっ! んうっ……♥ はあ……♥ んっ……♥」

「あ、あ……ああ……お腹の中、熱い……」

「ウソですよね……これ……」

「う、うう、ダメだって……言ったのに。」

「ふう……はあ……ふうはあ……ふう……」

「いめんなさい……いめんなさい……」

「キミの……知らないところ……」

「キミ以外の人を、受けいれて……いめんなさい……」

■シーン2

(＊シーン1からの連続で怪人にお掃除フェラを命られるところから開始)

(〃達したあとの息も絶え絶えなところから混乱と羞恥で真っ赤になる感じで)

【正面 一歩右1.0Mマイクの方に向く】

「ふう……ふうつはあ……はあふうつ」

「はあ、はあ……つく、もう終わった……」

「ひゃー？ こんなもの突きつけ……」

「え、え、お掃除ですか、くうつ、首輪のせいで逆らえないからってなんてことを……」

「首輪を解いてくれたら魔法で……ダメですよね」

「うう、じゃあ、て、ティッシュかタオルで……え、ええー？」

【正面 一歩右0.3Mマイクの方に向く】

「く、口でなんてー？ あ、あ、ダメー？ 唇に近づいてっ？ 嘘、嘘ー？」

(＊お掃除フェラ開始)

(〃強い拒絶と嫌悪感は吐き気がする未満ぐらいでお願いします)

【正面 一歩右0Mマイクの方に向く】

「んちゅん、んん……うう、動画のための実況だなんて……」

「ひどい味と匂いです」

「つく、美味しくなってるわけありませんっー？」

「こんな、こんな男の人の、ア、アレを……」

「ち、チンポですか？ し、知りませんそんなこと……ああ、また体が勝手にー？」

「ちゅっ んっ……ふー、ふー、ちゅっちゅ ねろっ……んんっ」

「もっど、したで舐め回すようにっー？ ああぁーっ」

「……はむっ んふー……ん、んんーっ……」

「じゅるっ……じゅるっちゅんっ……じゅん……ちゅん……」

「臭いです……それに、苦い……」

「褒められても嬉しくなんかっ……」

「うう、口の中、お、おちんぼの匂いで、せーしだなんて、これが私の中に……」

「はあ、はあ 止められない、嫌なの……っー？」

「ちゅっ……じゅるっちゅんっ……じゅん……ちゅん……」

「ちゅむっ……ちゅっ……はむっ……ねろっ……ちゅんっ……♥」

「ですが……私は、魔法少女ですから……」

「これくらいで……負けたりなんかしません……」

「れろっ……ちゅむっ……ぢゅっ……ちゅるるっ……じゅく……♡」

「ぢゅっ……ちゅくっぢゅぶるっんじゅるちゅくっ」♡

「耐え抜いて……彼の元に戻るんです……っ」

「ぢゅるっぢゅるっ……ぢゅくっぢゅじゅっ……れろっ……」

「ぢゅっ……じゅっ……ちゅっ……んじゅっ」

(／＼やや慣れてきて、嫌悪感はあるつつも一生懸命やろうとしてる感じで)

【正面一步右0mマイクの方  
向に向く】

「もっと口全体でって……うう、うう、ですか？」

「ふう……はむっじゅるくっ……んんうっじゅぶ」

「んんうつつんんうつつちゅぶつ……ちゅくつ……んづつ」

「……」

「先っぽを舐めると……ヒクヒクが強くなって……」

「んちゅふうれろちろつちゅくうっ……んうっふう……」♡

「ふうふうんちゅうふうはむっ……じゅんぐっ……んんうっ」

「それに……臭いも濃くなっている気が……」

「ちぢふう……じぢふう……ちぢふう……」

「私、なんでこんなの、うう、おちんぽを舐めて平気で……この首輪のせいです！」

「うう、命令に逆らえないだけだなんて信じられせんっ……」

「だって、だって……れろっ……」

「ふうふうろじゆりっ……じゆくじゆっ……ちゆくっ……♡」

「怪人さんを……気持ち良くするためとかじゃ……ないです……っ!？」

「私はただ……早く彼の元……に……帰るために……」

「嫌々……しているだけ、ですから……っ！」

「じゅぶちゅくうっ……んちゅぶうんちゅっ……ちゅるうっ」

「じゅるうつれろっんうつ……れろじゅりっ……はむうつ……♡」

(＊啞えフェア)

「んじゅくつぢゅぶるつれろつ……じゅうつはむつ……」

「次は……どうですか？」

「んんうっじゅく……ちゅじゅうっ……はむっ……ちゅりゅっ♥」

「んぢゅっっちゅむっ……んんっつれろっ……じゅむっ……♡」

「んんうっ……これ……」

「中に残ってる……苦いのがいっぱい、出てきて……」

「すごく……気持ち悪いです……」

「れろっ……ちゅぶっ……れろっ……じゅむっ……じゅっ」

「こんなことを……嫌がる女の子にさせるなんて……」

「怪人さん……最低過ぎます……」

「ちゅるるっ……れろちゅっ……んちゅっ……ちゅぶっ……ちゅくっ……♡」

「ぢゅぢゅっ……んちゅっ♡……ちゅりゅっれろっ……んぢゅっ♡」

(＊怪人に睾丸舐めを指示される)

（かなり強めの嫌悪感で無理やり我慢してやつてる感じでお願ひします）

【正面一歩右0.3mマイクの方へ向く】

「……次はこの、袋みたいなお部分……？」

「こんなところ、舐めて気持ちいいんですか……？」

「じゅりりっぢゅぐっじゅぽっじゅっ……ぽっぢゅぐっ」

「吸い付きながら……こんなこと」

「ふうふう……れろじゅりつちゅぼおつぶぼおつじゅつぽつ♥」

「じゅくじゅく……じゅく……じゅく……ぽくぽくぽく」♥

「んんうっ……袋の中……」

「丸いものが入っています……」

「ぢゅっぽっぶおっじゅっぽっじゅっ……ぢゅぢゅっ♥」

「これが……赤ちゃんの種を作る部分……」

「じゅっぽっじゅっ……ぽっぢゅっぽっじゅっぽっじゅっぽっ」

「ぢゅっぽっぢゅぽっぢゅぐっふうふう……んちゅっ」♡

「才能なんて、こんなことで褒められても嬉しくありませんっ！」

「こんなこと、首輪のせいで逆らえない、からで……男の人の股に顔を埋めて嬉しいわけっ！」

「あるわけないですっ！」

「うん、ふつ、うん、うん、うん、ふつ、うん、ふつ……」

「じゅぽっじゅりっぢゅぢゅっ……ふー、ふー♥」

「これで終わ……え、ええ！？　これからが本番って、何を……」

（＊喉の奥まで男性器を突っ込まれてイラマチオ開始）

(二)驚きと息苦しさと、後半はほんの少し発情した感じであればと)

【正面一歩右0mマイクの方に向く】



「あんなに出したのに……まだ、大きいです……」

(\*怪人にお尻を向けるように指示れ、壁に手をついておしりを向けてしまっロイン)  
(〃なんとか気を強く持とうと虚勢を貼っている感じでお願いします)

【正面一步右1.0mマイクの反対方向に向く】

「ま……まだ続けるつもりですか？」

「話が違います……っ」

(\*負けを認めるかと迫られる)

「……私の負け……っ？」

【正面一步右1.0mマイクの方向に向く】

「そんなの、正義の使者として認めるわけにはいきません」

「……続きをするなら、負けたことにはならないんですね？」

「はあ、はあ♥ さっきより硬く大きくなってるっ……」

「うっ、でも、これぐらいでくじけるスイート・エリイではありませんー！」

「う……受けて立ちます♥」

(\*挿入前にぼそと彼への謝罪を漏らし、悶える)

【正面一步右1.0mマイクの反対方向に向く】

「……ごめんね……」

「んっ……ふっ、ああああっ……♥」

(\*挿入、ゆっくりと後ろから男性器を女性器に入れられる)

(〃二回目で苦痛が薄く、快楽がでてくることに困惑する感じをお願いします)

【正面一步右0.5mマイクの反対方向に向く】

「うっ……ああっ……んあう……ー？ あはあ……ー？ うあ……ー？」

「ああっ……♥ うあ……♥ んあっ、あうっ……ー あはあ……ー！」

「痛み……ー？ さっきより、なくて……♥」

「なんでー？ んあっ♥ なにこれえっ♥」

(〃嬌声を抑えるために、自分の口を手で塞ぐ)

「ああっ……………？ ああっ、ああっ……………♥ はうっ……………♥ んんう……………！？」

「あっ……………あっ♥ ふっ……………んあっ、んあっ♥」

「あう……………あうっ、あうっ……………♥ あっ♥♥ はあっ……………♥」

「違い……………ます……………♥」

「私……………感じてなんか……………♥」

「ふっ……………ああっ……………、はうっ……………♥ うっ……………あうっ♥」

「はっ……………あっ♥ ああっ、あっ♥……………っー〜」

「んあう……………ああっ……………ああっ……………♥……………っー〜 あうっ♥」

(\*ピストンされながら、顔を振り向かせられてキスをされ、胸も揉まれる)

(〃息を荒く、拒絶と快楽が半々ぐらいでお願いします。)

【正面一歩右0.5mマイクの方に向へ】

「んちゅっ……………こんな乱暴なキスっ……………ぢゅりゅっ……………♥ んあっ♥ぢゅぢゅめっ♥ぢゅぢゅっ……………♥……………♥」

「んちゅっ……………♥ じゅむっ……………んっ♥ぢゅぢゅっ……………♥……………♥ んっ♥」

「ふう……………♥ ふう……………♥ 気持ちいいわけっ……………んあうっ♥ んちゅっ……………♥ んちゅっ……………♥……………♥ んちゅっ……………♥……………♥ んっ♥」

「勝手に……………胸……………♥」

「触らないでください……………♥」

「逆らえないからって女の子の体、こんなめっちゃくちゃに、んんっ♥」

「んっ……………ん……………はむっ……………じゅへ……………♥ んじゅへっ♥」

「違います……………感じるから、とか……………♥」

「そういうわけではなくて……………♥」

「んっ……………♥……………♥ んうっ、んうっ♥ぢゅめっ、ぢゅめっ……………♥」

「……………♥ んっ♥……………んあうっ♥ぢゅへっ……………♥ んっ♥」

「私の体どっなってるのー？ うそ、うそです♥ メスだなんて……………ふあっ♥へうっ♥」

「キスも胸もお、オマンコなんてそんなエッチな、私は、私は♥ そんなこと、されたらあ……………♥」

「んちゅっ……………♥……………♥ んあうっ、んちゅっ……………♥……………ぢゅぢゅめっ……………♥」

「んあっ♥ んんっ♥ んじゅへっ♥ んっ……………♥……………♥ んっ♥」

「ひひっ♥♥ 乳首はつかじりっ……………ななで、も、ないでっ……………♥……………♥ ん、んあっ♥ 耐えなっちゃいけないのっ♥」

「んちゅっ……………ぢゅへっ♥ れろっ……………じゅめっ……………ぢゅめっ……………♥」

「んっ、んんうっ♥んあうっ、んっ♥じゅむっ……………」

「ちゅむっ……………ちゅむっ……………んっ♥はむっ……………んあうっ♥」

「正義は……………♥どんなことをされても、絶対に……………」

「悪の……………怪人さんには、負けませんから……………」

「ぢゅぢゅっ……………♥ふっ……………ふっ……………ぢゅむっ……………♥ふっ……………ちゅりゅっ♥」

「れろっ……………♥れろっ……………れろっ……………れろっ……………」

「ぢゅぶっ……………はむっ……………んじゅくっ♥んあうっ♥んちゅっ……………」

(※オラにピストンが速まる)

(〃我慢と嬌声が交互になっていく感じで感じるのを止められなくなっていく流れでお願いします)

【正面一歩右0.5mマイクの方へ向く】

「ふっ……………♥……………ふっ……………♥……………あう♥」

「あうっ……………ああっ……………♥んうっ、んうっ♥んあう♥」

「あう……………はうっ……………♥あう♥んあう……………ああう……………」

「それえ……………激し過ぎます……………」

「さっきより……………深い場所まで、入って来て……………」

「ああっ♥んんう、んうっ♥あう、あう……………」

「はっ……………んう……………♥あうっ♥あう♥んあう……………」

「あっ♥ん……………はうっ……………あう……………♥あう♥」

「声は……………勝手に出てるだけです……………」

「気持ちいいとか……………そんなの……………」

「関係ない……………ですからあう……………」

「ああっ……………あはあ♥うっ、あう……………♥あう……………」

「あう、んうっ♥あう、あう、ああう♥」

「もう……………中はダメ……………ですから……………」

「中でおつきくなってる、またー？ だめ、だめ、だめっー？ そんな、抜いて、抜いてくだう……………」

「んう……………♥……………あうっ♥んんう♥あうっ♥」

「はっ……………♥んあ……………♥あん……………っ♥うあ♥あう♥」

「外に、もうこれ以上っ、んひいっー？」

(〃絶頂感を覚えて、余裕を失う)

「ふっ……………んんんうっー！？」

「あっ……♡ んんう♡ あっ♡ あう……♡ うあ♡」

「なんですか……これ……♡」

「よく……♡ 分からない、ですけど……♡」

「何か……変なの、来そうで……♡」

「ふっ……♡ んんう♡ あうっ♡ んあ……♡ んあ……♡」

「ん……♡ ううっ♡ んうっ♡ ああっ♡ ……♡」

「それ以上……♡ 動かないでください……♡」

「私……♡ おかしくなっちゃいますからあっ……♡」

「ふっ……♡ うっ♡ んあっ♡ うあ♡ ああっ……♡」

「ああっ……♡ んうっ♡ はうっ……♡ んんう♡ ああっ♡」

「あっ♡ んんう♡ あっ♡ ああっ♡ あうっ♡」

「ん……♡ あああっ♡ あっあっあっあはあああっ……♡」

(＊射精と同時に絶頂を迎える)

「——んっ……♡ んんう~~~~♡♡♡」

(＊中出し後)

(〃達したあとの倦怠感と快楽になんとか反発して、気持ちを奮い立たせて気丈振る舞おうとしている感じで)

【正面一歩右1.0Mマイクの方に向く】

「はあっ♡ はあっ♡ はあ……♡ んあ……♡ はあっ♡」

「はあっ♡ ふうっ♡ ふう……♡ はあ……♡ ふうっ♡」

「違い……ます……♡」

「気持ち良くなんて……なかったです……♡」

「こんなの……つらいだけ……ですから……♡」

「撮ったもの全部、カレにつ……っく、ごめんなさい、でも、わたし、んちゅっ!? 離れて……」

「カレはこんなことぐらいでっ……信じてますから! 絶対に負けません!」

「私、頑張るからっ……これぐらい耐えて、1週間ぐらいっ……♡♡♡」

「なんてことない、からあ……♡」

「はあ、はあ♡……だから、キミもっ……」

■ シーン 3

(＊5日間犯され続け、恥じらいは薄れむしろ積極的な様子に自分でも気づいてない様子のロイン)

(／怪人への拒絶感が薄れてはいるけど、表面上は敵対しているふう)に話しかけている  
【正面 一歩右1.0Mマイクの方に向く】

「へい……今日も、するんですよ……？ 動画も、全部力に……」「いれへういど……ひゃわっ♥ 約束の一週間まで、あと二日の辛抱ですから……」  
「へ、首輪のせいです、これは首輪のせい、こんな凶悪なちゃんぽ♥……じゅるっ♥」

(＊耳舐め手)キ開始)

(／怪人への拒絶感が薄れてはいるけど、表面上は敵対しているふう)に話しかけている  
【右0.3Mマイクの方に向く、耳舐めプーイイ】

「まずは、怪人さんのお耳を舐めさせられ、ます……」

「もう何度もさせられてるから、これくらいで怯みません……はー、はー♥」

「……んっ♥ ぢゅへうっ……ぢゅへうっ……♥ じゅるっ♥ ぢゅへうっ……はむっ……♥」

「ふっ……♥ はむっ♥ ぢゅるっ♥ んぢゅふっ♥ ぢゅむるっ♥」

「ぢゅるっ♥ ふっ……♥ じゅるっ♥ はむっ♥ ぢゅむるっ♥」

「うっ……もうおちんちんピクピクって反応して♥」

「な、慣れてきたわけではないですっ……」

「何度も何度も二のおちんちんに泣かされ……ましたけど……」

「ぢゅふっ……♥ ふっ……♥ ぢゅふっ♥」

「ふっ……♥ じゅふっ♥ ぢゅふっ……♥ ぢゅへうっ……ぢゅへうっ……♥」

「逆らえないし、約束ですから……はあ、はあ♥……そ、想像なんてしてませんー?」

「嫌でも……♥ 覚えてしまいますから♥」

「ぢゅへうっ……♥ はむっ♥ んぢゅふっ♥ はむっ♥ ぢゅふっ……♥」

「じゅるへうっ……♥ じゅるっ……ぢゅへうっ♥ んぢゅふっ……ねろぢゅふっ……♥」

「はむっ……♥ じゅふっ♥ じゅふっ……♥ んっ……♥」

「でも……♥ 違いますからね♥」

「こんなこと……♥ 本当はしたくなんか、ありません……♥」

「解放されるため……♥ ですから……♥」

「ぢゅるっ♥ ぢゅるっ……ぢゅふっ……ねろっ♥ んっ……♥」

「じゅるっ♥ ぢゅるっ……ぢゅふっ……はむっ……♥ ねろぢゅふっ……♥」

「おちんちゃん、もう……♡」  
「又ル又ル……♡ ベストベストですよ♡」  
「れろちろっ♡♡ じゅくじゅっ♡♡……♡♡ ちゅじゅっ♡♡ じゅめっ♡♡ すめへむっ♡♡」  
「ちゅっ♡♡ れろっ♡♡……♡♡ ちゅじゅるっ♡♡……♡♡ じゅっ♡♡ ふっ♡♡」  
「我慢汁……♡♡ でしたよね♡」  
「たっぷり出てきています♡」  
「はむっ♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡ ちゅっ♡♡」  
「じゅるっ♡♡……♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡ ちゅむるっ♡♡ ちゅっ♡♡」  
「毎日毎日……♡♡ こんなことしてゐるの♡♡……♡♡」  
「どうしてこんなに……♡♡」  
「おちんちゃん、元気なんですか……♡♡」  
「れろちろっ♡♡ ちゅじゅるっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅじゅりっ♡♡ ちゅっ♡♡」  
「……♡♡」  
「はむっ♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡ れろっ♡♡……♡♡ ちゅむるっ♡♡ ちゅっ♡♡」  
「私が……♡♡ シ「シ」♡♡ してるからですか……♡♡……♡♡」  
「私……♡♡ そんなにエッチですか……♡♡……♡♡」  
「んっ♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡ ちゅぶっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡ じゅぶっ♡♡」  
「ちゅむっ♡♡……♡♡ じゅるちゅっ♡♡……♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡ ちゅっ♡♡」  
「そんなこと……♡♡ 褒められても……♡♡……♡♡」  
「嬉しくなんか……♡♡ ないですから♡♡……♡♡」  
「おちんちゃんシ「シ」♡♡ してるのも……♡♡……♡♡」  
「全部、命令されて……♡♡ はあ、はあ、首輪で逆らえないから」  
「じゅるっ♡♡……♡♡ れろっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡」  
「はむっ♡♡ ちゅちろっ♡♡……♡♡ ちゅむっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡」  
「私は、私は正義の味方なんですから……♡♡ おちんちゃんあっ♡♡」  
「じゅぶ♡♡ ちゅむるっ♡♡……♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡ じゅくじゅっ♡♡……♡♡ ちゅじゅりっ♡♡」  
「ちゅぶっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡ ちゅぶっ♡♡」  
「ん……♡♡ っ♡♡」  
「そろそろ……♡♡ 出さう♡♡ ですよ♡♡」  
「いつものように手にですか……♡♡ ふー、ふー♡♡ 興奮だなんて♡♡」  
「……♡♡ か、カメラを見ながら……♡♡ わ、わかりましたっ♡♡」  
「じゅるちゅっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡」  
「ちゅちゅっ♡♡……♡♡ ちゅちゅじゅめっ♡♡……♡♡ ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡」  
「ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡」  
「ちゅっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡……♡♡ ちゅるっ♡♡」

（／＼だんだん発情して艶っぽく、息を荒くしていく感じで）

(＊手で射精を受け止め、主人公の指示で精飲する)

(／精子への嫌悪感もほぼなくなつて、発情しているけど「いやいや」という演技をしている感じぞ)

「んあっ ♥ ひゅっひゅーっ ♥ 毎回「こんなに……両手でやっつて受け止めるのびびる」

【正面一歩右1.0Mマイクの方に向へ】

「こんなに臭くてどろどろ熱くて……」「へっ」

「「これはいつも実況しろって命令されてるからで、はあ、はあ」

「今日も、飲むんですよ……うう、カメラの近くで舌を出して、はあ、はあ ♥ んちゅ」

「ちゅっ ♥ ……ちゅるるっ……じゅむっ ♥ ……ちゅへっ ♥ ……ちゅるるっ……ちゅへっ ♥ ……」

「ん……」「へっ ♥」

「ふっ ♥ ふっ ♥ ふっ ♥ ……はあ……はあ ♥」

「飲み干しましたよ…… ♥」

(／嬉しそうなのが隠しきれてない感じぞ)

「次は……んあっ ♥ 頭なでないでください ♥ 「こんなに」で褒められても ♥」

(＊寝そべっている怪人に素股をする為またがるロイン)

(／精子への嫌悪感もほぼなくなつて、発情しているけど「いやいや」という演技をしている感じぞ)

【正面一歩右1.0Mマイクの方に向へ】

「これから素股を……怪人さんのおちんちんをお混ですりすりして……」

「んふっ ♥ 脇を見せながらですか？」

「へ、変態さんです ♥ ……ふー、ふー ♥ 「っ」っですね」

(／だんだん興奮が強くなつて嬌声が隠しきれなくなっていく感じぞ)

「あん…… ♥ うっ…… ♥ あうっ ♥ はうっ……あう…… ♥」

「ああっ ♥ うっ…… ♥ あはあ……ああっ ♥ あっ…… ♥」

「んあう…… ♥ んあ ♥ はっ……あうっ ♥ ああっ…… ♥」

「この声…… ♥ 違いますからねっ ♥」

「別に…… ♥ 感じているわけじゃなくて…… ♥」



「いね……♡ わざいずすよね……♡」

「私のこと……♡感じさせようとして……♡」

「……♡んっ♡んっ……♡はむっ♡じゅ♡じゅ♡」

「こんな……♡ あからさまなことでされても、私……っ♡」

「イったりなんて……♡ しません、からあ……っ♡」

(＊絶頂に向けて高まる)

（演技も忘れて、キスと素股に熱中して喘いでいる感じをお願いします。）

【正面一歩右0mマイクの方へ向く】

「んんうっ……♡ん……♡んんうっ……♡ん……♡んあっ♡」

「じゅっ♡ちゅっ♡ちゅっ♡……♡れっ♡ちゅっ♡」

「ん……♡じゅっ♡ちゅっ♡じゅっ♡ちゅっ♡」

「待ってください……♡これ……っ♡」

「このままじゃ、私……♡」

「おちんちんより……♡先に……♡」

「ぢゅぢゅ……♡ はむっ……♡ はむっ……♡ んんっ……♡ んじゅっ♡」

「太ももでもっとぎゅつと♥ クリトリスでっ……んはあっ♥」

「……竿のゴリゴリしてるのを……あ、あつ♥ ダメえっ♥」

「じゅむっ……ちゅりゅっ♥ちゅりゅっ……じゅうっ♥ん……」

「♡ふっ……♡ふっ……♡ふっ……♡ふっ……♡ふっ……♡ふっ……♡ふっ……♡ふっ……♡ふっ……」

(＊寸止めされ悶える)

（「イキそうなど」で止められて切なさを感じてお願いします）

【正面一歩右0.5mマイクの方  
向に向く】

「はあっ♡ はあっ♡ ふう……♡ んうっ……♡ はあ……♡」

「ふう……♡ はあ……はあ……♡ はあっ♡ はあ……♡」

「どうして……♡止めたんですか……♡」

「あと少しで……♡」

「ふう……♡んあ……♡はあ……はあ……♡はあ……♡」

「いえ……♡なんでもないです……っ♡」

「ふう……♡  
ふう……♡  
ふう……♡  
ふうっ♡  
ふうっ♡」

「素股じゃ、イキたくないんですか……？」

「やっぱり、イクなら……おまんこの中の方が……？」

「……仕方ないですね♡」

「どうしてもというなら……私には拒否権がありませんから……♥」

「どうせ首輪で命令されるんですから……」

「自分で開いて誘ってるわけじゃないです。これは仕方な……」

(＊体位を入れ替えられて正常位で挿入)

(／いきなりなことではびっくりするけど、男性きのの挿入の感触にうっとりする感じでお願ひします)

【正面一歩右0.5mマイクの方角に向く】

「あううう……♥ あああう♥」

(＊スローセックス開始)

(／いつもの激しさがないので物足りなく焦らされている感じでお願ひします)

「んんう……あん……♥ あん……ん……♥ あう♥」

「あう♥♥ あう♥♥ あはあ……♥ あん……♥……う♥」

「どうして……♥」

「せうかく……♥ おまんこハメ、してるのに……♥」

「そんなに……ゆっくり、じっくり……♥」

「あう♥ はう……♥ あう♥♥ あん♥ ううう……♥」

「はう……♥ あはあ……あう……♥ ん……♥ あう……♥」

「あう……♥ はあう……♥ うあ……♥ うあ……♥……う♥」

「もっと……♥ 激しくてもいいんですよ……♥」

「はう……♥ ああう♥ うう……♥ ん……♥ うあ……♥」

「その気に……させてみるう……」

「そんな、そんなこと、自分で誘ってるみたいじゃないですか、はあ、はあ♥」

(＊ディープキスしながら)

(／言い訳をしながらおねだりしている感じ)

【正面一歩右0mマイクの方角に向く】

「んじゅく♥♥ ん♥♥ んじゅく♥♥ ふう……♥ ふう……♥ ん♥」

「れろ♥♥♥ じゅん♥♥♥ じゅん♥♥♥ ぢゅりゅ♥♥♥ ん♥♥♥♥♥」

「怪人さん……♥」

「これは演技ですからから♥……口の中まで舌を絡めて♥……息でぎなくなるべらい絡み合  
つて♥」

「め、命令ですからから♥ぢゅりゅつ……♥ぢゅむつ……♥んぢゅつ……♥ぢゅへつ……♥  
……♥ん♥」

「ぢゅぢゅつ……♥んぢゅつ……♥ぢゅへつ……♥ん♥……♥ぢゅつ……♥ぢゅへつ……♥  
「ぢゅつ……♥ぢゅりゅつ……♥ぢゅむつ……♥ぢゅむつ……♥ん♥……♥」

(＊ディープキスしながら)

(／＼とどどん興奮して喘ぎ声求める気がない感じをお願いします)

【正面一歩右のMMマイクの方向に向へ】

「んあっ♥……おちんちん中でおっきくなつて♥」

「ビクビクつて……♥」

「おまんこの中で震えて……♥」

「ぢゅむつ……♥んあうっ♥……♥んうっ♥れろっ♥んあっ♥

「んっ……♥んっ♥じゅるっ……♥ん♥ん♥」

「怪人さんの前で……抱き合つて♥……はあ、はあっ♥………んはしたない」どっ

「……命令、命令されてるから♥」

「……「うやうやうえっ♥………んはおっきなおちんちん♥……んおっ♥んんっ♥」

「ぢゅぢゅつ……♥ぢゅりゅつ……♥じゅっ……♥んっ♥んっ♥じゅへつ……♥」

「ぢゅぢゅるっ♥れろっ♥ぢゅりゅつ♥ぢゅへつ♥ぢゅつ……♥」

「これは早く終わらせるため……ですから♥キスも♥おっぱいも♥全部使って♥

「れろっ……♥ぢゅぢゅるっ♥れろっ……♥れろっ……♥ぢゅるっ♥」

「ぢゅぢゅるっ♥れろっ♥んんっ……♥ぢゅぢゅるっ♥んっ……♥んっ……♥んっ……♥

「はあい♥耳もですね♥」

(＊耳舐めプレイ)

(／＼媚びを売るように、耳舐めと囁きを交互に)

【左のMM囁き、カメラの方向に向へ】

「ぺろっ♥………こんなのなんともないです♥はあ、はあっ♥」

「……怪人さんに抱きついて♥お耳を♥」

「だったら……♥」

「じゅるっ……♥ぢゅむるっ♥ぢゅじゅっ……めはあ……めはあ……♥

「ぢゅむるっ♥んんっ……んんっ……♥んぢゅっ♥んぢゅじゅ……♥

「あっ♥ちゅぶっ……♥あん♥ふっ……あふっ……♥」

「今日はうちの気分ですか……?」

「ちゅくっ……♥ふっ……♥ちゅくっ……れろじゅりっ……♥あん♥」

「ちゅぶっ……♥んんっ♥ふっ……ちゅむるっ♥んちゅっ……♥」

「キスの時より……♥」

「おちんちんの反応、いいですよ♥」

「んんっ♥ちゅぶっ……♥あはあ……♥ん♥うあ……♥」

「あっ♥ちゅぶっ……♥じゅぶ♥れろっ……♥ん♥」

「カメラ?……わ、忘れてませんー!」

(\*怪人、激しい突き開始に、ヒロイン悶える)

(〃〃なんとか強がりをいうくらいで7割ぐらい快樂で喘いでいる感じで)

【正面 一步右0.5mマイクの方へ向く】

「んあっ♥……下から激しく突き上げてえ♥ガチガチおちんぽで♥オマン」の肉壁  
ひろげられてっ♥」

「んあっ……♥あっ♥あっ……♥はうっ……♥んあっ♥」

「はうっ……♥んうっ♥んう……♥ん♥ああっ♥」

「あう♥んあ……♥っ……♥ああっ♥あっ……♥」

「え、演技ですっ♥あ、あ♥……激しいっ♥こんなのもうなれま、んあっ♥んひ  
いっ♥」

「全然感じてなんて♥あう……♥ああっ♥んあう……♥あうっ♥あうっ……♥」

「ふっ……♥あん……っ♥ああっ♥んあ……♥あうっ♥」

「はっ……♥あっ♥あうっ♥あっ……♥うっ♥」

「私は……♥別に……♥」

「ゆっくりでも……♥激しくても……♥」

「同じです……♥」

「気持ち良くは……♥ない、ですから……っ♥」

「あはあ♥あっ♥あうっ♥あん……っ♥んあ……♥」

「ああっ……♥……っ♥ああっ……♥んんう♥うあ♥」

「ああっ……♥んあ……♥あうっ……♥ああっ♥ううっ♥」

「命令だから怪人さん抱きつきながら♥足でがっちり腰にしがみついてなんて♥」

「私、私♥ありえな、んあっ♥」

「あう……♥んあっ♥あはあ♥んう……♥ん♥」

（／／完全に発情して中出しおねだりするべからいまで堕ちちゃってる感じで）

【正面 一歩右0.3mマイクの方へ向く】

「あぁっ……♡ あぁっ……♡ ん……♡ あう♡ んぁっ♡」

「んんう♡ あはぁ♡ あっ……♡ んんう♡ んぁっ♡」

「外にー？ え、えー？ どうせ今ですって中出しされてきたんですから♡」

「……そんなの♡ 解放されてから魔法でどうにかすれば、んぁっ♡ あ、あ♡」

「……中出し、すればいいじゃない、ですかっ♡」

（＊絶頂に向けた高まり）

「んぁ……♡ あう……♡ あはぁ♡ ん……♡ あぁっ……♡♡」

「あっ……♡ んんう……♡ あっ♡ はぁっ♡ あっ♡」

「あっ♡ あう……♡ あぁっ♡ ん……♡ あっ♡」

「私の腰♡ がっしり掴んで本気ピストン♡ そ……♡ そんなに突いたら……♡♡」

「ダメです……っ♡」

「んぁう……♡ んぁう……♡……っ♡……っ♡ うっっ♡」

「んぁう……あぁっ……♡ あう……♡ はうっ……♡ はう……♡♡」

「私も……♡ 我慢できなくなっちゃいますからぁ♡」

「んぁう……♡ あん……っ♡ あう♡ はうっ……♡ あうっ♡」

「……っ♡ あぁっ……♡ あぁっ♡ はう……♡ あっ♡」

「あっ♡ あはぁ♡ あぁっ♡ んぁ……♡ あぁっ♡」

「ダメ……♡ ダメダメダメ……っ♡」

「んぁっあっあっあぁあぁあぁあうっうっ……♡♡♡♡」

（＊中出し射精、絶頂を迎えるヒロイン）

【正面 一歩右0.5mマイクの方へ向く】

「——んっ……んぁあぁうっ~~~~っ♡♡♡♡」

「んんう……♡ はぁ……んんう……♡ はぁ……♡ はぁ……♡♡」

「んんう……♡ はぁ……♡ んぁ……はぁ……♡ んぁ……♡♡」

「中に♡ 私の中にいっぱい♡ あっういせーじゅてててっ♡」

（／／絶頂後の余韻に幸せそうに浸ってる感じで）

【正面 一歩右1.0mマイクの方へ向く】

「……と、ところけてませ、んんっ♡ 気持ち良くなんて♡……」んなの♡」

「はあ、はあ♥ はあっ♥ ……え、ええ、明日で怪人さんの約束の1週間目ですね……そ  
うですね」

(〃小声で残念そうに)

「あと1日、あと1日」

「んっ……♥ 抜けちゃった……はあ……♥ はあっ♥ はあ♥」

■ シーン 4

(＊約束の最後の日、部屋を訪れる怪人だが、ヒロインに手を出さない)

(〃思ったのと違ってソワソワするヒロインでお願いします)

【正面 一歩右 1.0mマイクの方向に向く】

「あの……どうしたんですか?」

「今日は、その……しないんですか?」

「怪人さんからは何もしいないって……つく、今までは無理やり、命令されたから……」

「何度も言ってるじゃないですか、アナタと、その、エッチするのは約束だから……解放されるため」

「アナタなんて好きになるわけ無い、ですから……」

「本当に手を出してこないんですか……? お前の好きにしていって……」

(＊動かない怪人が好きにすればいいと言い放つ)

(〃理由ができて嬉しそうに怪人に駆け寄るヒロイン)

【正面 一歩右 0.3mマイクの方向に向く】

「それは、命令……命令ですね ♡ 命令なら……しかたないですから ♡」

(＊ご奉仕最初、ディープキス手コキ開始)

(〃最初からノリノリで言い訳はするけど発情しているのがバレバな感じで)

【正面 一歩右 0mマイクの方向に向く】

「いつものようにまずはキスから ♡ んちゅっ……れろちゅっ……れろちゅっ……じゅく……んんんっ ♡」

「ちゅぶっ…… ♡ んちゅっ…… ♡ んんっ ♡ じゅっ ♡ ちゅく ♡」

「じゅるっ…… ♡ じゅく…… ♡ んちゅっ…… ♡ ぢゅぶっ…… ♡ ぢゅぢゅっ…… ♡」

「アナタが毎日っ……ん、んちゅっ ♡ 命令して、キスさせてきたから ♡」

「こんなエッチなキスができるようになったんですよ ♡ はぁ、はぁっ ♡」

「ほらぁ ♡ 怪人さんの好きなエッチなディープキス ♡」

「んんっ ♡ ぢゅぶるっ ♡ ちゅむっ…… ♡ ちゅむっ…… ♡ ちゅぶっ…… ♡」

「じゅく…… ♡ じゅむっ…… ♡ じゅっ ♡ ぢゅっ…… ♡ はむっ…… ♡」

(＊ディープキスを継続しながらヒロインが怪人の股間をズボン越しに撫でる)  
(〃とても嬉しそうに、段々と息を荒く興奮していく感じで)

【正面 一歩右 0.5mマイクの方向に向く】

「ほらほら……♡ おちんちん、もうおっきくなってきたる♡」

[illegible]

「じゅっ♡ちゅん……♡ちゅん♡ちゅん♡ちゅん♡」

「毎日エッチしても、元気なおちんちん……♡」

「こんなおちんちんで、毎日……責められたら♥」

「たいていの女の子は……堕ちちゃいますからっ♡ 私だから耐えられてるんです、ん♡」

「♥……じゅんじゅん♥……んちゅん♥……うんうん♥……じゅん」

「ちゅぶっ……♡  
ちゅぶっ……♡  
ちゅむっ……♡  
んじゅっ♡  
ちゅねっ……♡」

「ぷふあつ♡」

(\*手〆キ開始)

【正面一歩右0mマイクの方へ向く】

「ん……ふふっ♡」

「怪人さんのー♥ズボンとパンツを下ろして♥」

「……はあ、はあ♥ 今日もガチガチのアツアツおちんちん♥ 手で握っただけで孕んじやいそう♥」

「ほら……♡ヒクヒクって……♡」

「こんな凶悪なのっ♥ 女の子のいちばん大事な所♥」

「オマンコの中に入れるだなんて♥」

「まだ我慢するつもりなら……♡」

(＊フェア開始)

(／＼最初からノリノリで言い訳はするけど発情しているのがバレバな感じで)

【正面一步右0.3mマイクに向く\*可能ならカメラの下方方向に0.3m】

「すんすん♥ オス臭い♥ いつもみたいにするだけですから♥ 怪人さんの股間に顔を埋めて♥」

「おちんぽに鼻が当たるぐらい近づいて♥　じゅるっ♥　こんなのお口で啜えるなんてありえませんか♥」

「でも、しかたないんです♥」

「れろっ……♡ぢゅりゅっ……♡ぢゅりゅっ……♡んじゅくっ♡ちゅっ……♡」

「れろっ……♡じゅうっ♡はむっ……♡んぢゅうっ♡じゅっ♡」

「んふっ♡」

「喉奥まで飲み込んで上げたから、私の唾液でてらつてらになつちやいましたね♥」  
「美味しいだなんて、そんなわけ♥」

[illegible]

(＊ぱいずりぶっかけ射精く精飲)

(〃抵抗なく当たり前のようにお口で精子を飲んじやって媚びてくるヒロイン)

「んっ……んんんっっ♥」

「ふっ……♥ふっっ♥んあ……♥はあ……♥ふっ……♥」

「ん……いっくっ♥」

「はあ……♥ふっっ♥ふっっ♥はあっ♥んあ……♥」

「お口で受け止めて……♥」

【正面 一步右OM】

「じっくんまでしましたよ♥」

「だから……♥おちんちん……♥」

(＊怪人にヒロインが上ならと条件を付けるられる)

(〃男性期から目が離せない感じで嬉しそうに要求を飲んでいくヒロイン)

【正面 一步右1.0Mマイクに向く】

「……私が、上に？」

「それって……自分で動くことですよね？」

「そんなの……自分から、おちんちんを求めているみたいで……♥」

「でも……♥……はい、分かりました♥」

「私が上でいいですから……♥」

「おちんちん……おまんこに来てください♥」

(＊怪人にまたがって騎乗位で挿入)

(〃歓喜の声で)

【正面 一步右0.3Mマイクに向く】

「あっっっっ……♥んんっ……♥はいつてきたあっっっっ♥♥♥♥」

(＊騎乗位開始)

(〃もうほとんど嬌声を隠そうともせず嬉しそうに淫乱に喘いでるヒロイン)

【正面 一步右0.5Mマイクに向く】

「あっ♥ふっ……♥んっ……♥……っ♥あっ♥」

「あうっ……♡ ああっ♡ うあ♡ ああっ……♡ んうっ♡  
「どうして、腰……♡」

「勝手に……動いちゃうっ……♡」

「ああっ……♡ あっ♡ ううっ♡ んあっ♡ あっ♡」

「ふっ……♡ あん……っ♡ ああっ♡ あっ……♡ ああっ♡」

「いつもより……♡ おちんちん、奥まで来て……♡」

「びしょぬれオマン」の奥♡ 子宮までどこいちゃいそうです♡

「んあ……♡ んうっ♡ あはあ♡ んあ……♡ はうっ……♡」

「こんなの……♡ 彼に見せられない……♡」

「自分で……♡ 気持ち良くなるために……♡」

「腰……♡ 振ってるようにしか見えませんから……♡」

「うっ♡ あん……っ♡ あはあ♡ ああっ♡……っ♡」

「あう♡ あっ♡ んあう……♡ ん……♡ あうっ♡」

「でも……♡ ウソじゃないです……♡」

「だって今……♡ すぐ、気持ち良くて……♡」

「あっ♡ んあっ♡ あっ……♡ んうっ♡ あっ♡」

「ああっ♡ ああっ♡ はっ……♡ あう……♡ ううっ♡」

「最初は……♡ 初めての時は……♡」

「痛くて……♡ 悲しくて……♡」

「本当に、嫌……でしたけど……♡」

「でも……♡ 毎日するようになってから……♡」

「ホントは途中で気持ちいいのが、快楽が上回って♡ ダメなのに♡」

「怪人さんのおちんぽが悪いんですっ♡」

「ああっ♡ あうっ♡ あっ♡ んう……♡ はあっ♡」

「ああっ♡ んう……♡ ああっ♡ ああっ……♡ ん……♡」

「……っ♡ ああっ……♡ うあ♡ ふっ……♡ あうっ♡」

(\*怪人に力を押さえつけられていた首輪を外される)

(／カメラのことを思い出されて、首輪まで外されたのに戦うわけでもなく、腰も止まらずにセックスを続ける自分に驚くヒロイン)

【正面一歩右0.3mマイクに向く】

「え、カメラ……ああ、ああ……だって、だって♡ 首輪で命令されて、私……」

「うそ、首輪取っちゃった♡」

「なんで、なんで♡ もう首輪無いのに♡ 命令なんて聞かなくていいのに♡ ダメ、ダメで  
す♡ 腰止めて、ぬ、抜いちゃ……あ、あそっだ、そうなんだ♡」

(／＼カメラは見ずに止まらない腰を見て自分がすでに堕ちている悟るヒロイン)

【正面 一步右OM下を向く】

「あはっ♥ 私とっくに♥」のおちんちがないと♥」

(＊怪人が動き出して快樂がまして絶頂するヒロイン)

(／＼完全に堕ちて喘ぐ感じをお願いします)

【正面 一步右O.3mマイクに向く】

「ひゃっあ♥ 激しく突き上げてえっ♥ ……あっ♥ んあっ……♥ あん……っ♥ ん……♥  
んあっ……♥」

「んっ……♥ あうっ……♥ ……っ♥ ああっ♥ ああっ……♥」

「ああ……♥ もうダメえ……♥」

「イク……♥ イっちゃ……♥」

「イク……♥ イクイク……イックうっ♥」

(＊ヒロインのみ絶頂を迎えるが、ピストンは続行。怪人に抱きつく感じで右耳元で告白)  
(／＼絶頂の余韻のあと、怪人に媚びる感じで。とても気持ちよそそに)

【右OM＊可能なら仮想の耳の奥に向く感じで】

「——ああはあああ〜っっ♥♥♥」

「ふう……♥ はあっ♥ はあ……♥ んあ……♥ ふっ……♥」

「はあ……♥ はあっ♥ はあ……♥ んあ……♥ ふっ……♥」

「ごめんなさい……♥」

「おまんこだけ先に……♥ イっちゃいました……♥」

「はあ……♥ ふっ♥ はあ……♥ はあっ♥ はあ……♥」

「本当のこと、言います……♥」

「本当は、今までもずっと……♥」

「おまんこイキ……♥ してました……♥」

「だって怪人さんのおちんちん……♥」

「気持ち良すぎますから……♥」

「はあい♥ そっですな♥」

「カメラに、キミにお別れを言わなきゃ♥」

「私♥ スイート・ミエリはあ♥ 怪人さんのおちんちんが大好きになっちゃいました♥」

「んちゅっ♥ だから、バイバイ♥ 私このまま怪人さんのものにしてもらって♥」

「ずっとずーっとおちんちんぽでハメハメしてもらっから♥」

「あ、ああ♥キミのことは忘れちゃう……んおっ♥  
「言っちゃった、言っちゃった♥ あはっ♥ もっともっと、怪人さんのおちんぼくだしいっ♥  
」

(\*突き上げ開始で、軽く呂律が回らない程に悶える)  
(〃吹っ切れた感じで)

【正面一歩右0.3mマイクに向く】

「んんうっ〜?」

「あう……♥ はあっ♥ ふっ……♥ ……っ♥ んう……♥」

「うあ♥ んあっ♥ ああっ♥ ん……♥ あうっ……♥」

「おまんこおっ……♥ イったばかりだからあ……♥」

「今あ……♥ 突き上げられたらあ……っ♥」

「あっ♥ あん……っ♥ ああっ♥ あう……♥ はあっ♥」

「あっ……♥ あはあ♥ あうっ……♥ ううっ♥ はあっ♥」

「気持ちいいのお……止まりませんよおっ♥」

「んんう♥ あう♥ んあ……♥ んうっ♥ んうっ♥」

「ああっ……♥ うっ♥ あっ……♥ ああっ♥ あう♥」

「毎日……♥ エッチしちゃっててえ……♥」

「もう……♥ 怪人さんのおちんちんのカタチいっ……♥」

「おまんこでえ……♥ 覚えちゃってます……っ♥ たくましくて、ゴツゴツの筋肉も♥ 唾  
液の味も♥ 色んなところの匂いも♥ 全部全部、覚え込まれちゃったんです♥」

「ああっ♥ はっ……♥ はうっ……♥ んうっ♥ ああっ……♥」

「あうっ♥ あはあ♥ あん……っ♥ んんう♥ はうっ……♥」

「もう……♥ むしろお……♥」

「このお……♥ おちんちんじゃないとお……♥」

「私いっ……♥ おまんこイキい、できません……っ♥」

「あん……っ♥ はっ……♥ あっ……♥ んんう♥ ああっ♥」

「んあっ♥ ふっ……♥ んあっ♥ あうっ♥ んあ……♥」

「だからあ……♥ お願い、します……っ♥」

「私をお……♥」

「怪人さん専用にいっ……♥」

「あっ♥ あう……♥ はうっ……♥ あっ♥ あうっ……♥」

「あっ……♥ あん……っ♥ んんう♥ はっ……♥ ああっ♥」

「怪人さんのお……♥ おちんちんケースに……してくださいっ……♥  
「ううっ♥ ああっ……♥ ああっ♥ あう♥ はっ……♥」

「はうっ……♡んあう……♡ああっ……♡ああっ♡はうっ……♡」  
 「んうっ♡あん……っ♡あはあ♡はっ……♡んあう……♡♡」

(＊耳元で怪人にこのままオナホになってしまっているのかと聞かれる)  
 (／＼とても嬉しそうに)

【正面一步右0.3mマイクに向く】

「は、はいっ！都合よく犯される……♡生オナホにいつ……♡」  
 「してほじいず……っ♡」  
 「お願い……しますっ……♡♡」

(＊以降、連続絶頂悶え)

【正面一步右0.5mマイクに向く】

「ん……♡はうっ……♡あはあ♡ああっ♡んあう……♡」  
 「あっ♡……っ♡ああっ♡ああっ……♡♡うあ♡」  
 「ああうっ♡これえ……♡イク……♡イツちゃ……♡♡」  
 「あっ♡うっ♡はあっ♡あん……っ♡うあ♡」  
 「——んんうっ……あああはあああっ♡♡」  
 「あはあ♡あっ……♡あっ……♡あん……っ♡うっ♡」  
 「ああっ♡ああっ♡あっ……っ♡はあっ♡」  
 「これ……♡ダメですうっ……♡♡」  
 「おまんこイキいっ……♡止まりません……っ♡」  
 「ああっ……♡……っ♡ああっ……♡あう♡はっ……♡♡」  
 「はあっ♡んあっ♡ふっ……♡んんう♡あう♡」  
 「……っ♡あうっ♡ううっ♡んんう♡はっ……♡♡」  
 「ああっ……♡あうっ♡ああっ♡んんう♡あうっ♡」  
 「——んあはああああ~~~~っ♡♡」  
 「おちんぼ好き♡アナタの生オナホになれて幸せ、です♡イグっ♡イグウっ♡」  
 「——んいっ……♡ああああんっ♡♡♡」  
 「うあ♡あっ♡あうっ♡ふっ……♡♡うあ♡」  
 「あん……っ♡んうっ♡ああっ♡ふっ……♡♡あっ……♡♡」  
 「——ふあああああんっ♡♡♡」

(／＼いきっぱなしで完全に呂律が回っていない状態で悶えている感じで)

「ふっ……♡ あう……♡ あはあ♡ あっ♡ あん……っ♡」  
「あうっ♡ ふっ……♡ んうっ♡ んあう……♡ あん……っ♡」  
「んあ……♡ うっ♡ あうっ♡ はうっ……♡ はっ……♡」  
「しゅき、しゅき♡ だいしゅきですうっ♡」  
「おちんぼでつかれるのイイ♡ おちんぼのことだけ考えてイキっぱなしになるのイイ♡」  
「あう♡ あっ♡ んあう……♡ はあっ♡ あう♡」  
「まるでえ……♡ おねだりです……っ♡」

(// 甘く媚びるように)

【右耳元】

「中出し……………してほしいってえ……………」  
「おまんこがあ……………♥ おねだりしてます……………」  
「んあ……………♥ ああつ♥ あうつ♥ あつ♥ あつ……………」  
「ああつ♥ ああつ♥ んう……………♥ あう♥ んあつ♥」  
「んんう♥ あはあ♥ んあつ♥ あつ……………♥ あつ♥」  
「だからあ……………♥ くださいいつ……………」  
「アナタ専用のお……………♥」  
「生オナホ……………おまんこにいつ♥」  
「せーし、ザーメン、どぶどぶびゅぶぶつてちそうしてください♥」  
「たつぶり……………♥ ください……………」  
「私も、またあ……………♥」  
「おまんこお……………♥ イっちゃいそう……………ですからあつ♥」  
「一緒にいつ……………♥」

(／＼完全に発情した喘ぎ声で)

【正面一歩右0.3mマイクに向く】

「あつ♥ うあ♥ ああつ♥ うつ♥ うあ♥」  
「ふつ……♥ あうつ♥ うつ♥ あう……♥ ああつ♥」  
「はあつ♥ ああつ♥ ああつ……♥ あつ……♥ んんう♥」  
「イク……♥ イクイク……♥」  
「んあつあつあつはつあつあつああはあああああつ……♥♥♥♥♥」

(※さつきよりも多い中出し射精で同時絶頂を迎える)

「——んあはあああ~~~~~っ♥♥♥」

(／絶頂後の余韻で息を荒く)

【正面 一步右0.3mマイクに向く】

「はあ…………♥ふう…………♥はあ…………♥ふうっ♥ふうっ♥」

「ふう…………♥はあ…………♥ふうっ♥んっ…………♥はあ…………♥」

「はあ…………♥はあっ♥んあ…………♥はあっ♥ふうっ♥」

「こんなおちんちん、教え込まれたら…………♥」

「もう、魔法少女になんてもどれない♥」

(／完全に堕ちたことが嬉しそうに)

【正面 一步右0.3mマイクに向く】

「カメラ？ もういいんです♥ 怪人さんのおちんぼの方が大事ですから♥んちゅっ♥」

■シーン5

(＊ビッチギャル化したヒロインが怪人に抱きつきながらカメラに向かってピースしている場面。カメラ(マイク)は最初は三脚でベッドの側に固定してる感じで)

(／喋り方もギャルっぽく。とても幸せそうに)

【正面 一歩右1.0mマイクに向く】

「うーいー♥ 元カレちゃん見てるー?」

「未練がましくまだアタシを探してるってダーリンから聞いて♥」

「しょうがないからもう一回ビデオレター送ってあげることにたよ♥ ぴーす、ぴーす♥」

「ふふふ♥ もしかしてアタシが私、元スイート・ミエリってわからない? わからないかなー♥」

「怪人さん、アタシのダーリンの好みに合わせてイメチェン、したの♥」

「髪は金髪に染めてラメ入れてー♥ エッチな感じに肌も焼いてー♥」

「いい子ちゃんの魔法少女衣装はいつでもエッチできるように改造♥」

「素材も黒と紫で、あ、首輪も新調してもらったんだ♥ ダーリンの所有物の証♥」

「とってもチンポにくるカツ」でしょ♥」

「あんっ♥」

「喋り方もギャルっぽい感じが好きって言うからー♥ 変えちゃった♥」

「んっ♥ はあ、はあっ♥」

「それでー、今日はダーリンとのラブラブガチハメセックス動画を」

「元カレちゃんに送ってあげるからこれでキミとはお終いつてことにしてね♥」

「オナネタに使えるようにドスケベな動画にしてあげる、から♥」

「あは♥ そっでーす♥」

(＊ヒロインが怪人に胸を揉まれながら指摘される)

(／媚びた声で息を荒く、あほっぽく答えるヒロイン)

【正面 一歩右0.5mマイクに向く】

「元カレちゃんとかどうでもいいからダーリンのおちゃんぽでいっぱいイキただけ♥」

「はあ、はあっ♥ こんなガッチガチチンポ知ったらメス是我慢できないからあ♥」

「いいよね♥ もついいよね♥」

(＊ズボンを脱がし、フェラ開始)

【正面 一歩右1.0m＊可能ならマイクに対して90度向きをつけるように】

「それじゃあ、ダーリンにいつもしてる<sup>て</sup>奉仕から」

「こっやって♥」

「座ってるダーリンの股間に顔を埋めて♥ お口でズボンのジッパーをずずずって下ろしてー♥」

「ハッハッ♥ んーっ♥ パンツも下ろしちゃって……おほっ♥」

「嗅いただけでお股濡れちゃうべらいのオス臭♥」

(〃犬みたいに鼻息を荒く、発情しながらの激しいフェラ)

「はーっ♥ はーっ♥ 犬みたいって♥ アタシ、ダーリンの雌犬♥ んちゅっ♥」

「犬みたいにお尻ふりながら<sup>ら</sup>奉仕フェラしますっ♥」

「ぢゅっ……♥ ちゅりゅっ♥ ちゅむっ……♥ ちゅっ……♥ れろっ……♥」

「じゅむっ……♥ じゅむっ……♥ れろっ……♥ じゅへ……♥ れろっ……♥」

「ん……♥ ヤバ♥ うまつ♥」

「やっぱりこのチンポ……♥」

「いつじゃぶっても最高なんだけど♥」

「はむっ……♥ じゅっ……♥ んじゅる♥ ちゅじゅっ……♥ じゅん……♥」

「じゅへ……♥ れろっ……♥ ちゅむっ……♥ ちゅっ……♥ んちゅっ……♥」

「んちゅっ……♥ ちゅりゅっ♥ ちゅるるっ……♥ ちゅむっ……♥ んじゅる♥」

「完全に勃起したら顎外れるべらいお口を開けないと飲み込めないの♥」

「あーん♥ おちんぼ用になったアタシのお口♥」

「喉奥で鈴口をムギユツと締めてこの長い舌で竿をなめなめてあげろの♥」

「窒息しそうなべらい息が詰まるけどダーリンのおちんぼが脳に<sup>に</sup>じゅっ<sup>に</sup>ナメるべらい気持ちめくって♥ アタシのバキュームフェラ、問近で撮ってね♥」

「もう我慢できない♥ いただきますーす♥」

(\*怪人がカメラ(マイク)を手にとってハメ撮りポジションに)

(〃本気のバキュームフェラ、激しめに)

【正面 一歩右 O.S.マイクに向へ】

「ぢゅっ……♥ んちゅっ……♥ じゅむっ……♥ ちゅむっ……♥ じゅん……♥ じゅん……♥」

「はむっ……♥ んちゅっ……♥ じゅむっ……♥ ちゅむっ……♥ じゅん……♥ じゅん……♥」

「ぢゅっ……♥ ちゅりゅっ♥ ちゅむっ……♥ ちゅっ……♥ れろっ……♥」

「ん……♥」

「はむっ……♥ じゅむっ……♥ れろっ……♥ じゅへ……♥ れろっ……♥」

「うっ♥」

(＊口内射精)

「んっ……んんんっ……♡」

「はぁ……♡ふっ……♡はぁ……♡ふっ……♡ふっ♡」

「んっ♡……見て見てお口にあふれるぐぐらいのザーメン♡サイコー♡」

(＊わざわざマイクに顔を近づけ、精飲音を聞かせる)

【右耳元】

「ん……♡きゅっ♡♡きゅっ♡んっば♡」

(／＼全力で怪人に媚びる感じで)

【正面 一步右0.5mマイクに向く】

「ダーリンのドロドロザーメン、ぜんぶ飲んじゃった♡」

「はぁ、はぁっ♡あはっ♡一回出したぐらいじゃ全然衰えないダーリンのちんぽ♡」

「うんうん♡チンポしゃぶりながらオマンコびしょ濡れにした♡」

「んしよっ……ほーら、愛液でぐっしよじょのショーツ♡」

「本番♡ガチハメ交尾セックスしよ♡雌犬らしく後ろから♡ダーリンのチンポでぶっ刺っ♡」

(＊後背位で挿入)

(／＼最初っからいきっぱなしで本心で幸せそうに喘いでいる感じで)

【正面 一步右0.5mマイクの反対方向に向く】

「はー♡はぁー♡……ん、あ、あぁ♡」

「チンポお……♡来たぁ……♡んおっ♡んん”””♡」

「あ、あ、あぁ♡ダーリンに腰がっちり捕まれってガチハメ♡」

「もっ♡強く♡深く♡ダーリン専用オマンコでチンポ感じさせて♡」

「んお♡んん””♡うんうん♡アタシもとかから素質♡ビッチの素質あったの♡」

「最初に見たときからダーリンのチンポから目が離せなくて♡想像してた♡」

「処女ちうしたあとすぐにオマンコがチンポの形覚えて♡強がってただけ♡」

「はっ♡はぁっ♡はぁっ♡魔法少女やったの♡」

「がっこーで優等生演じてたの♡今まで生きてたの♡」

「全部全部ダーリンに堕としてもらうためだったの♡」

「あ、あ♥あうっ♥あうっ♥……んっあ♥」

「乳首潰されるぐらいいぢゅっって握られるのイイ♥」

「後ろから子宮に届くまでおちんぼズボズボされていきたい♥いきたいの♥」

「んあっ♥んひいっ♥……あっ♥ああっ♥あああ♥」

「使い潰されても魔法で♥淫乱オマン」のまま♥新品ぷりっぷりのピンクに戻せちゃうから♥」

「おちんぼで」リ」リ♥アタシのオマン」に出し入れしてっ♥雌犬に交尾セックスでザーメン射精してっ♥」

「んん♥ひぐっ♥んぐっっ♥♥♥」

「パンパンパン♥気持ちい♥ビッチになれてよかった♥このおちんぼの味覚えたらもう戻れない♥」

「お、おっ♥出すの♥出しちゃうの♥思いつき奥で射精♥」  
「ダーリンのあっつあつのせーしを射精して♥」

(＊同時絶頂・中出)

(／絶頂後の余韻で息も絶え絶えな感じで)

「——んあっ……あああゝゝっ♥♥♥」

「ふうっ♥はあ……♥ふう……♥んあ……♥んあ……♥」

「はあ……♥はあっ♥ふうっ♥ふう……♥ふう……♥」

「ヤッバ……♥アタシいますっ」い顔してる♥」

「え、え♥顔が見たいってー？ひゃっ♥ー？んん♥」

(＊対面座位に体の位置を変更)

(／イチヤラブを見せて感じる感じで、ディープキスをしながらピストン)

【正面一歩右0.3mマイクの方へ向く】

「中出しされたまま、チンポ入れたままひっくりかえしちゃった♥」

「ダメ♥今ほんと見せられない顔してるから♥んちゅ♥エロい顔って♥」

「そんな真正面でダーリンに言われたら♥んおっ♥好き♥好き♥もっと好きになっちゃう♥」

「ちゅくっ……♥じゅるくっ……♥んちゅっ♥ちゅるるっ♥れろっ……♥れろれろお♥」

「んふっ♥ダーリンのチンポ全然満足してない♥じゃあ……♥今度は耳を舐めながらアタシが動いてあげる♥ね♥」

(＊ピストンをしながら耳舐めご奉仕)

(／息を荒く、ねっとりとした感じで)

【左耳元、囁き、耳舐め】

「左のお耳をお♥」

「れろっ♥れろっ……♥んんうっ♥れろっ……♥じゅるっ……♥」

「んんうっ……♥はむっ♥ちゅむるっ♥んんうっ♥ちゅぶっ……♥」

「ダーリンに抱きつきながら♥全身でご奉仕♥あ、ああ♥……え、お前がチンポ好きなだけ?」

「そっでーす♥アタシはダーリンのチンポがだーい好きなビッチだからあ♥こっやって♥」

「じゅぶ♥じゅるへっ……♥ちゅぶっ……♥あっ♥ちゅむるっ♥」

「ちゅくっ……♥ふあっ……♥ちゅくっ……♥れろっ……♥ちゅくっ……♥」

「ナメナメしながら腰動かして♥おちんぽに媚びて♥ザーメンおねだりするの♥」

【右耳元、囁き、耳舐め】

「あは、それじゃあ反対の右のお耳も♥」

「ああっ……♥れろちろっ♥じゅるへっ……♥ああっ……♥ちゅくむっ♥」

「あん……♥ちゅくっ……♥ちゅぶっ……♥ちゅぶっ……♥ちゅくむっ♥」

「チンポもお耳もザーメンも全部好き♥うぶな私に教えてくれてありがとっ♥ぞいます♥アタシになれて♥何の気兼ねもなくおちんぽ媚びれるなんてとっても幸せ♥」

「じゅぶ♥ちゅむっ……♥ちゅるっ♥ちゅくっ……♥ちゅくっ……♥」

「んんうっ……♥ふあっ……♥うあ……♥ふっ……♥れろちろっ♥」

「れろじゅりっ……♥ん……♥ちゅむるっ♥ちゅむるっ♥うあ……♥」

「はあ、はあっ♥はーあ♥……はあい♥」

【正面 一歩右0.3mマイクに向く】

「最後はラブラブ種付セックスだね♥カメラに見せつけながら♥」

(＊最初は正常位でキスをしながら抽送開始。カメラはベッドの側の三脚に再度固定)  
(／媚びた声で息を荒く完全にビッチに堕ちた下品な感じで)

【正面 一歩右0.5m＊可能な範囲マイクに対して90度向きをつけるように】

「じゅく……♥はむっ……♥ちゅちゅっ……♥んんうっ♥んっ……♥」

「んあうっ♥ちゅくっ……♥ふう……♥ふう……♥じゅっ♥れろっ……♥」  
「ちゅぱっ♥唾液だらだらになるぐらいのキス♥」

「もっともっと♥子宮の入り口でもダーリンのチンポのさきっぽにキスして♥」  
「上のお口でも舌絡ませながらデープなキス♥」

「はむっ……♥じゅるっ……♥んんっ……♥じゅむっ……♥れろっ……♥」  
「ちゅりゅっ……♥れろっ……♥んっ♥んあうっ♥ちゅくっ……♥」

「れろっ……♥ちゅちゅっ……♥んじゅくっ♥ちゅくっ♥ん……♥」  
「ダーリンとイチャラブ♥幸せ♥幸せ♥」

「あはっ♥ダーリのチンポ更に硬くおっきくなったあ♥このまま種付しよ♥」  
「アタシの一番奥までダーリンのザーメンで犯して♥ガチハメセックスでイかせて♥」

「んあっ♥んんっ♥これこれ♥押しつぶすぐらいの本気ピストン♥んちゅ♥ダーリン、  
ダーリン♥」

(\*ここからデープキスをしながら種付ピストン)

「ちゅむっ……♥ちゅりゅっ♥んちゅっ……♥ちゅりゅっ♥んちゅっ……♥」

「ちゅくっ……♥ちゅちゅっ♥ちゅくっ♥ちゅっ……♥んっ♥」

「……♥んっ♥じゅく……♥はむっ……♥じゅむっ……♥ちゅむっ……♥」

「おちんぼが中まで♥奥まで♥卵子出せっ♥子宮貫くぐらい入っ♥てきてるっ♥」

「んじゅくっ♥じゅるっ……♥んちゅっ……♥じゅるっ……♥んちゅっ……♥」

「ちゅりゅっ♥ちゅっ……♥ちゅぶっ……♥ちゅくっ♥ちゅむっ……♥」

「チンポもお……♥ペロチンポも、両方……♥」

「どっちも……♥かき混ぜてえ♥」

「ん……♥ん……♥ちゅっ……♥ちゅむっ……♥ん……♥」

「んおっ♥お、おっ♥……ちゅぱっ♥……はっ♥はっ♥はあっ♥」

「ザーメン♥ザーメン♥絶対孕むからあ♥ダーリンのちんぼで子宮にザーメンご馳走  
くださいい♥」

「れろっ……♥んんっ♥ちゅぶっ……♥んあっ♥はむっ……♥」

「下品な声で♥獣みたいに喘いで♥おちんぼにわからせられるの♥脳みそにオマンコ  
が直結してるメス♥」

「あ、あ、ああ♥ピストン早くなっ♥てえ♥おちんぼガチ本気で出し入れ♥」

「ちゅるっ♥ちゅくむっ♥んんっ……♥れろっ……♥ちゅくっ……♥」

「んんっ……♥イク……♥イク……♥子宮の奥でイクっ♥ちゃっ♥」

「んっ♥ああっ♥ああっ♥あうっ……♥はあっ♥はあっ♥はあっ……♥」

「イク……♥イク、イクイク……♥イク……っ♥」

( \* 同時絶頂を迎えて中出し )

「イェー~~~~~~~~♡♡♡……!」

( \* 長い射精中 )

// 絶頂の余韻でねっとりとした感じで、耳舐めをしながら

「ちゅくむっ♡♡ ちゅくむっ♡♡ はむっ♡♡ れろじゅりっ♡♡ じゅるっ♡♡」

「あちゅいのいっぱいでてるっ♡♡ 子宮たつぷたふ♡♡ でも、まだまだ出るよね♡♡」

「はぁ、はぁっ♡♡……マァン」で全部……♡♡ 搾り出すから……♡♡」

「はむっ♡♡ ちゅぶっ♡♡ ちゅっ♡♡ れろっ♡♡ んんっ♡♡ ダーリンのザーメン全部注いど♡♡」

「ちゅぶっ♡♡ ちゅるるっ♡♡ んんっ♡♡ ちゅむるっ♡♡ ちゅくっ♡♡……♡♡」

( \* 撮影を思い出す )

// とても幸せそうに

【正面 一歩右 0.5mマイクの方を向いて】

「はぁ……はぁっ♡♡……はぶっ♡♡……あ、そっいえばこれ、撮影してるんだっけ？」

「じゃあ……お別れのメッセージくうい送ってあげないとね♡♡」

「いえーい♡♡ ぴーすぴーす♡♡ ダーリンとのガチハメ交尾セックスビデオどうだったー♡♡」

「それじゃあ、アタシはダーリンとのセックス続けるから♡♡」

「そっちは忘れるなりオナネタにするなり好きにしてね♡♡」

「ビデオは妊娠検査薬の結果と一緒に送ってあげる♡♡」

( \* 怪人の方に向き直って、そのままセックス再開 )

// 下品に媚びておねだり

【正面 一歩右 0.5mマイクの反対方向を向く】

「あはっ、それよりも♡♡ ダーリン、ダーリン♡♡ つづきしよ♡♡ まだまだいけるっしよ♡♡」

「ダーリンが望むなら元の魔法少女の姿でも♡♡ 学生服でも♡♡ ドスケベ衣装でも♡♡ なんでも好きな格好で♡♡ 奉仕するからあ♡♡」

「おちんぼ♡♡ アタシの肉穴にダーリンの極太おちんぼハメイカして♡♡ 頭真っ白にして♡♡」

「……っ♡♡ ああっ♡♡ ああっ♡♡ うっ♡♡ あん……っ♡♡」

「んっ……♡♡ ああっ♡♡ あっ……♡♡ あっっ♡♡ はぁっ♡♡」



■ 素材用喘ぎ声

(＊シーン2～3の魔法少女状態)

(／かなりゆっくりと、切なそうに喘ぎを耐えようとしている感じで)

【正面 一歩右0.5mマイクの方角に向く】

「ふう……ふうっ、はぁ……はぁ……はぁっ♥ふうっ♥あ、あ……はぁ……はぁ」

「はぁ……♥ふう……んっっ、んっー？ はー、はぁー♥あ、あ……あぁー？ ふぐうっー？ ん、んっ♥」

(＊シーン2～3の魔法少女状態)

(／激しくなるピストンに、手で口を覆い、声を抑えようとしている演技でお願いします)

【正面 一歩右0mマイクの方角に向く】

「ふう……♥ふうっ♥はぁ……♥はぁ……♥はぁっ♥ふうっ♥あ、あ、あぁぁー？」「はぁ……♥はぁっ……♥ふう……んっっ、んっー……？ はー、はぁー♥あ♥あ♥「ああ♥ふぐうっー？ ん、んあっ♥いやあっ、やめっ♥ふー、ふー♥はぁっ……♥はぁっ……♥ふぐうっっ♥ふぐっ♥んぐっ♥あ♥あ♥あぁぁ♥」

(＊シーン5のビッチに堕ちた状態)

(／媚びた声で息を荒く完全にビッチに堕ちた下品な感じで)

【正面 一歩右0.5m＊可能ならマイクに対して90度向きをつけるように】

「はぁっ♥うっ♥んあう……っ♥んあっ♥あうっ♥あうっ♥んっ♥あぁっ♥」

「あう……♥あっ♥あぁっ……♥んあ……♥んあ……♥んう♥あぁっ♥あぁっ♥

「あうっ♥はぁっ♥んあ♥うあ♥あう……♥あっ♥“あっ♥”あっ♥“あぁあう……♥」

【左耳元 囁き、耳舐め】

「はむっ♥はむっ♥ちゅくむっっ♥ちゅくむっっ♥はぁ、はぁ、はーっ♥」

「はむっ♥れろじゅりっ……♥じゅるっ……♥ちゅるるっ♥れろちろっ♥じゅるっ♥」

「れろっ♥じゅるっっ♥ふー、ふー♥んんっ♥あぁっ♥ちゅじゅ……♥ん♥」  
「れろっ……♥ちゅくっっ……♥じゅるるくっ……♥あっ♥ちゅるるっ♥れろっ……♥」